［学術集会印象記］

第17回新潟医療福祉学会学術集会の特別講演、シンポジウムの印象記

東京医科大学医学部看護学科
副学長補・副看護学科長・教授　永島　美香

学術集会が開催される当日、東京は雨が降っていた。この天候では新潟方面は寒いに違いないと思った私は相当な厚着をして新潟行きの新幹線に乗った。初めての新潟入りとワクワクしていたが、車窓の風景を眺めているうちに「新潟へ行くのは初めてではない」ことに気が付いた。何年前だろうか。新潟で地震のあったとき大学の同僚と３人で災害支援に来たこと。指定された体育館の２階で１週間寝泊まりしながら、避難している住民の方々の健康管理を行ったこと。周りの民家の屋根はブルーシートで覆われていたこと等々、鮮明に記憶が蘇ってきた。支援活動を行った被災地と会場とは地域が同じではないと思うが、新潟駅に着くころにはワクワク感から「また、戻ってきた」という懐かしい気持ちに変わっていた。そして、駅を出て思ったこと。「東京より暖かい」。

駅から大学まではかなりの道のりであったが、新潟医療福祉大学に到着した途端、広大な敷地と自然と調和した大学の建物の景色に感嘆した。というのも、私の勤務する大学は新宿のど真ん中にあり、看護学科の敷地はテニスコート２面分しかない。学生の学習環境としては、なんて羨ましいというのが第一印象であった。

そうこうしているうちに、私の講演時間となり会場へ入ったが、そこには会場を埋め尽くすほど多くの看護学生がやや緊張した面持ちで着席していた。私は笑顔を振りまいていたが、心の中はかなり焦っていた。今回はシミュレーション教育を実践する教員や臨床の人々を対象に講演内容の準備をしていた。内容どおりの講演だと学生の興味関心とかけ離れている、そしてあまり学生には知られたくない部分（教育上の技、マジックのネタばらし）も多く含まれていた。表面上は笑顔で語りつつ、頭をフル回転させ、学生の理解に沿うよう内容を再構築しながら話をした。焦っていたせいかやや早口ではあったが無事に講演を終えた。私の話を一生懸命傾聴し、理解しようとする学生一人ひとりの姿勢に感謝するばかりであった。

２部は「未来へ繋ぐ保健・医療・福祉・スポーツ分野のシミュレーション教育」と題し、シンポジウムを開催、座長としての役割を任された。ここでは、３名のシンポジストの先生方にご登壇いただいた。まずは、「理学療法学科におけるOSCEの取り組み」をテーマに新潟医療福祉大学助教の高橋英明先生にご講演いただいた。次に「一次救命処置（BLS）におけるシミュレーション教育」をテーマに、国立病院機構新潟大学小児科医長の木下悟先生にご講演いただいた。最後に新潟大学副学長の坂本信先生に「コンピューターシミュレーションによる膝関節アライメント評価と人工膝関節術前計画・術後評価とその製品化」をテーマにご講演いただいた。このシンポジウムを通し、専門領域は違うが、それぞれの専門性を活かし、相互理解・協力連携することで新たな教育方法、更には医療やケアの開発に繋がってくのではないかという将来への可能性を見出すことができた。

第17回新潟医療福祉学会学術集会の特別講演者 永島美香教授（東京医科大学医学部看護学科副学長補）は、2018年２月初旬にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

特別講演をお願いした時、「シミュレーション教育を多くの方に知っていただく良い機会だから」と言ってご快諾いただきました。当日は、シミュレーション教育が学生をいかに育てるか、重要かを熱意を込めてご講演いただき、たくさんの示唆をいただきました。今後もシミュレーション教育についてご助言いただきたいと考えていましたが、それも叶わず残念です。

安らかなご永眠であることを心よりお祈り申し上げます。

大会長　塚本康子